

米中激突6

南沙の独裁者

大石英司

Eiji Oishi

立ち読み専用

立ち読み版は製品版の1～20頁までを収録したものです。

ページ操作について

- 頁をめくるには、画面上の▶（次ページ）をクリックするか、キーボード上の▶キーを押して下さい。
- もし、誤操作などで表示画面が頁途中で止まって見にくいときは、上記の操作をすることで正常な表示に戻ることができます。
- 画面は開いたときに最適となるように設定してありますが、設定を変える場合にはズームイン・ズームアウトを使用するか、左下の拡大率で調整してみてください。
- 本書籍の画面解像度には1024×768pixel(XGA)以上を推奨します。

地 插
 画
 安 安
 達 田
 裕 忠
 章 幸
平 面
惑 星

目次

プロローグ	15
第一章 フリーダム	21
第二章 スルタン	44
第三章 人柱	73
第四章 ラプター	100
第五章 チャイナ・ドリーム	127
第六章 シースカウト	155
第七章 指揮官不信	183
第八章 対艦弾道ミサイル	212

登場人物紹介

日本

防衛省

[陸上自衛隊特殊作戦群隷下 極秘任務部隊〈サイレント・コア〉]

おとなしせいじ
音無誠次 二佐。〈サイレント・コア〉創設者にして隊長。

土門小隊

どもんこうへい
土門康平 三佐。小隊長。学者肌のマイホーム・パパだが、頼れる司令塔としての顔も。コードネーム：キムリック。

はたけともゆき
畑友之 曹長。冬戦教からの復帰組。コードネーム：ファーム。

おおしろまさひこ
大城雅彦 一曹。土門の片腕として活躍。コードネーム：キャッスル。

まちだ はるお
待田晴郎 二曹。地図読みのプロ。コードネーム：ガル。

みずの ともお
水野智雄 二曹。元水泳の強化選手。コードネーム：フィッシュ。

たぐちしんた
田口心太 三曹。部隊随一の狙撃手。コードネーム：リザード。

あづまだい
吾妻大樹 士長。山登りが人生という男。コードネーム：アイガー。

ひ か ひろみ
比嘉博実 士長。ドンパチ好きのオキナワン。田口の「相方」を自称。

コードネーム：ヤンバル。

司馬小隊

しば ひかる
司馬光 三佐。部隊の紅一点にして最強の小隊長。コードネーム：ターキッシュバン。

うるしばらたけとみ
漆原武富 曹長。司馬を補佐する。コードネーム：バレル。

ふくとめだん
福留弾 二曹。小隊のまとめ役。コードネーム：チェスト。

みどうそうま
御堂走馬 二曹。元マラソン・ランナー。コードネーム：シューズ。

い い かげる
井伊翔 三曹。司馬小隊のITエンジニア。コードネーム：リベット。

かわにし まさふみ
川西雅文 三曹。元Jリーガー。コードネーム：キック。

あ び ら あきら
阿比留憲 三曹。対馬出身。西方普連から修業にきた。コードネーム：ダック。

あかばねたくま
赤羽拓真 士長。フィールドでのゲテモノ食いに長ける。コードネーム：

シェフ
姉小路実篤 士長。コードネーム：ポーンズ。

あねこうじ さねあつ
由良慎司 士長。西方普連から引き抜かれた狙撃手。コードネーム：ニードル。

おだ ぎりしやう
小田桐将 一士。童顔が特徴。コードネーム：ベビーフェイス。

〈陸上自衛隊 西部方面普通科連隊〉

なかやまたかお
中山隆雄 一佐。西方普連部隊指揮官。

てらわきりょう
寺脇亮 三佐。第一中隊を率いる。

〈海上自衛隊 第一護衛隊〉

ばんどう ごろう
板東吾朗 一佐。第一護衛隊群第五護衛隊司令。土門とは仕事上で一〇

年来の付き合いがある。

よりやかどうじろう
寄近藤治郎 二佐。作戦幕僚。

そねざきしん
曾根崎慎 二佐。第五護衛隊の新造護衛艦「あきづき」艦長。

すなかわゆうり
砂川悠里 三佐。航空幕僚。

〈航空自衛隊〉

すごうぼまれ
須郷誉 空将。航空幕僚長。

たにさわこうき
谷沢弘毅 空将。航空自衛隊航空総隊副司令官。

[第二航空団]

とみながこうすけ
富永浩介 二佐。第二航空団千歳第二〇一飛行隊を率いる。

おぼたきとし
小幡諭 一尉。二番機を操縦。

////// 韓国 //////////////////////////////////////

陸軍

カンチェハ
姜彩夏 大尉。韓国陸軍参謀本部作戦二課に所属。コードネーム：ラグ
ドール。

海兵隊

〈第一海兵師団第七連隊〉

コジェヨン
高在容 大佐。第一海兵師団第七連隊連隊長。

アンジェホン
安在憲 少佐。第七連隊作戦参謀。

〈パンナラ部隊〉

シンシンス
申信守 大尉。パンナラ部隊隊長。ベテランの職業軍人。

チョンヨンジョン
全勇俊 軍曹。

////// フィリピン //////////////////////////////////////

〈RRDフリーダムランドA-12分遣隊〉

レイエス・タルロック 中尉。RRDフリーダムランドA-12分遣隊の
指揮を執る。

ジェフリー・ラブア 少尉。副隊長。フィリピン海軍の次代を担う男。

フェデル・フェルナンデス 伍長。パラワン島の出身。

アメル・ヴィリア 一等兵。調理人。

カーリーフ・ソムロン スルタン名乗る老人。

エミリオ・ソムロン カーリーフ・ソムロンの一人息子。

鳥井佐武朗 元一尉。海上自衛隊の特別警備隊を事実上立ち上げた人物。

退職してからフィリピンに移住した。

鳥井守人 鳥井佐武朗元一尉の長男。

中国

国防省

海軍

ワンチイエンスシツ

王建設 海軍大将。中央軍事委員会総政治部主任兼、戦略指揮局常務委員長。

シエアイチユン

謝愛軍 海軍少将。作戦参謀。

クリムゾン

《紅中隊》

マオシアオフツン

毛招峰 中佐。部隊長。

ウェイチヤオ

韋肇 曹長。下士官のまとめ役。

ハンチイシン

韓志心 少佐。《紅中隊》A小隊を率いる。

レイチン

雷敬 少佐。《紅中隊》副隊長兼B小隊を指揮する。

陸軍

ウェイヤントン

韋仰東 中將。

《第四六落下傘師団・第一三七落下傘連隊》

シャオタオ

邵濤 陸軍大佐。第四六落下傘師団・第一三七落下傘連隊を率いる。

ファンホフ

範鶴 少佐。作戦参謀

[エキシビジョン&ニューボーン・グループ (ENG)]

ユースワンリイ

于勝利 ENGのオーナー。中国の長者番付の常連。

[ENG私設軍隊]

モオクアンイン

莫冠英 少将。

チンアロン

金亜龍 中佐。作戦参謀。

スンリイリイ

孫麗麗 少佐。八卦掌の有段者。

ホツファン

賀帆 中尉。

《中央電視台緊急即応班》

チアンチヤオ プロデューサー

江兆 制片人。軍事問題をレポートしている。

ユイムウチン

余慕青 若い女性のインタビューア。

//// アメリカ //////////////////////////////////////

アルノルト・ダンネベルク 国家安全保障問題担当大統領補佐官。大統領に最も近い立場にいる。

国務省

キャロライン・ベネット 国務省国務次官補代理（東アジア担当）。

国防総省

ナミブ・ロドリゲス 政策担当、国防次官。

バネッサ 黒人女性。エージェントの支援を請け負っている。

海兵隊

マシュー・ベックマン 大将。総司令官。海兵隊を具現化したような男。

《第3海兵隊師団》

ジェームズ・レイ 中將。第3海兵隊師団司令官。

ミッシェル・オブライエン 大尉。第3海兵隊師団副官。

ライリー・グロー 大佐。第31海兵隊遠征隊を指揮する。

メリッサ・ココフ 中尉。A中隊第一小隊四〇名の指揮を執る女性士官。

〈アメリカ海兵隊武装偵察部隊〉

エドガー・ナカムラ 中尉。第3偵察大隊B中隊所属。ペリリュー島出身。

クライブ・コーリン 三曹。エドガー・ナカムラとバディを組む。

海軍

ジョーディ・ポートマン 中佐。フリーダム（三〇〇〇トン）艦長。

グレッグ・トーレス 少佐。フリーダム副長。

空軍

エンリケ・ギアード 大佐。米空軍の連絡将校を務める。

C I A

チャック・ギラン C I A副長官。

[ハワイ・ヒューマン・リソース研究所（H H R I）]

チャールズ・キム H H R I代表。

ケン・マグヌス H H R I上級アナリスト。

[チャイナ・パシフィック・トラベル社]

シイアフエイ

夏妃 チャイナ・パシフィック・トラベル社のガイド兼通訳。現在はC I Aにスカウトされ、俄スパイとして〈サイレント・コア〉と行動をともにしている。

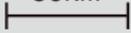
フィリピン全図



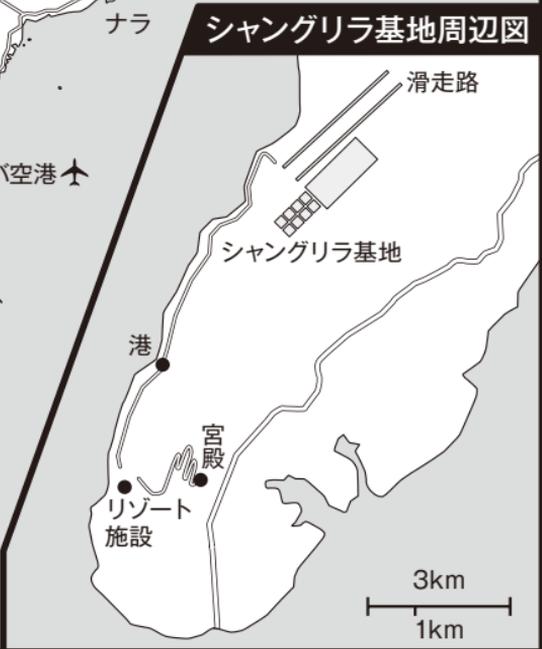
パラワン島地図



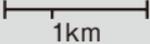
50km



シャングリラ基地周辺図

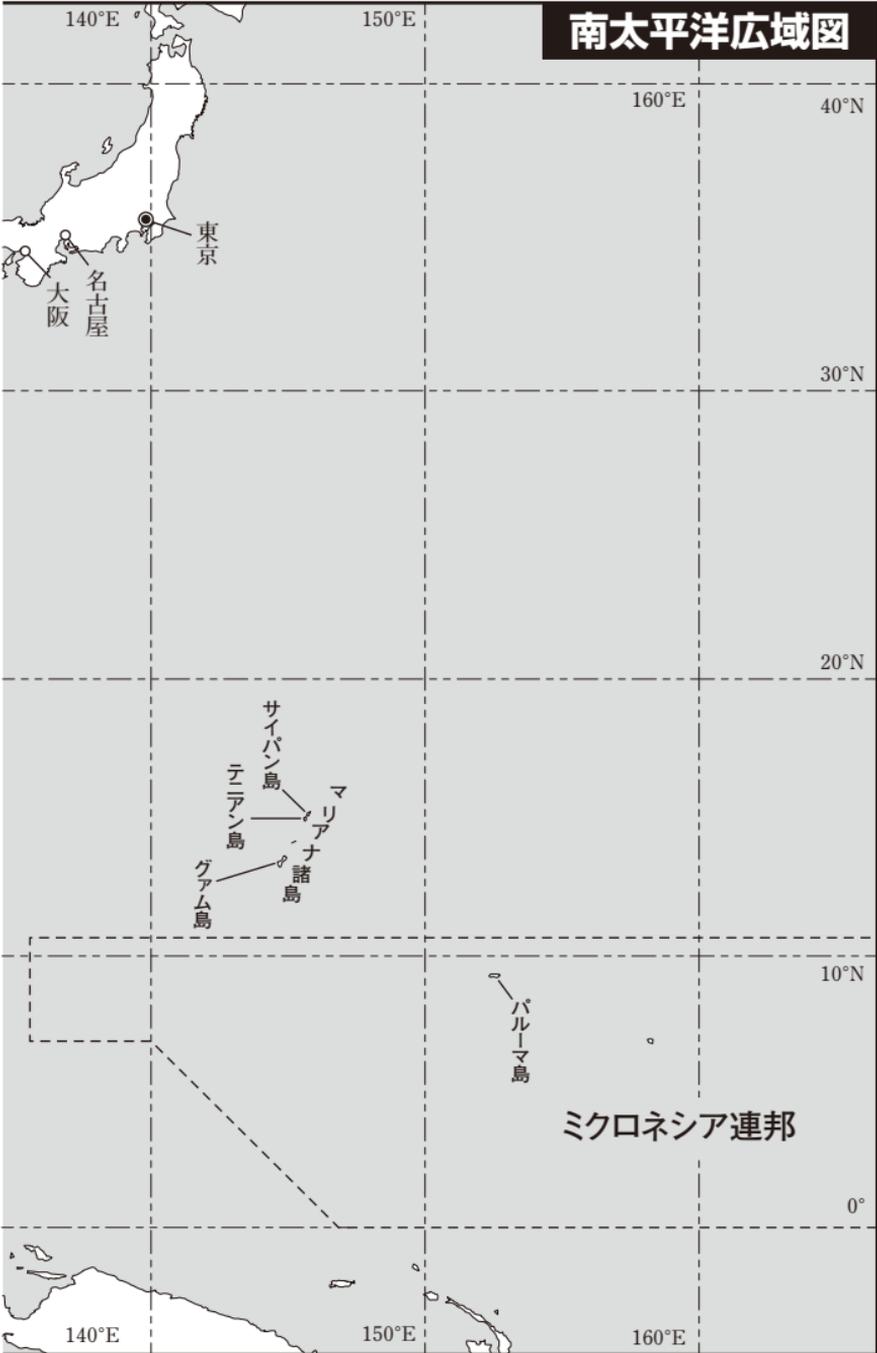


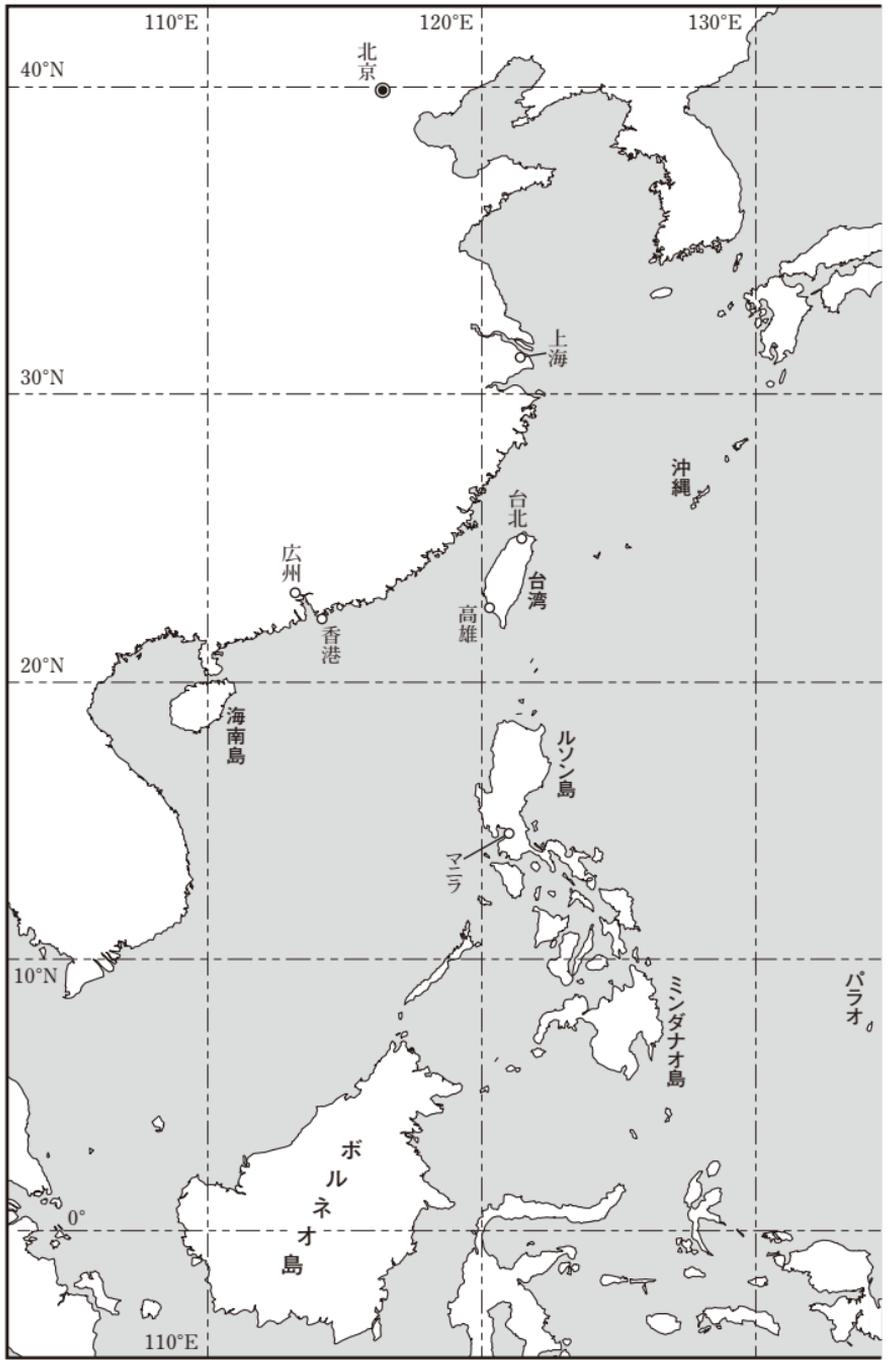
3km



1km

南太平洋広域図





米中激突6 南沙の独裁者

プロローグ

フィリピンのパラワン島は、ルソン島とボルネオ島を、まるで首飾りで繋ぐつなぐような形をしている。幅は平均四〇キロ前後しかないが、南北には四〇〇キロもある。まるで棒のような細長い島だ。

島の西側は、いわゆる南沙なんさ海域。東側はスールー海。そのスールー海を挟んでミンダナオ島があった。

中部太平洋のパルーマ島にはじまり、パラオへと移った中国とアメリカの確執は、パラオのペリリユーでついに直接対決するに至り、次の舞台をパラワン島へ移そうとしていた。

ペリリユーで、米海兵隊と日韓台湾同盟軍の攻

勢に全滅しかけていた中国軍を救ったのは、皮肉にも中国軍にペリリユーを占領されたパラオ政府だった。

パラオは、台湾との外交関係を断絶し、北京ペキン政府を正統政府として承認することを条件に、中国に停戦を吞ませたのだ。

中国軍の歩兵はその夜のうちに、パラオ政府が手配した船舶でペリリユー島からコロール島へと移動し、パラオ空港から旅客機で出ていった。

ペリリユーに上陸した米海兵隊と自衛隊は、それぞれの艦隊に引き揚げた。韓国軍と台湾軍は、中国軍が完全にペリリユーから引き揚げた後に、

ペリリユーを去る手はずになった。

中国軍は、パラワン島に設けた秘密基地を經由して、兵士をペリリユーへと大空輸していたのだ。

寝耳に水のフィリピン政府は、昨今のパラワン島を巡る中国の不穏な動きもあって、アメリカ政府からの空爆の申し入れを即座に了解すると同時に、陸兵による制圧作戦も許可した。

夜のうちに、グアム・アンダーセン空軍基地から、B-2ステルス爆撃機二機が、パラワン島南端に設けられた二本の滑走路を爆撃するために飛び立ったが、作戦は失敗に終わった。

滑走路上空には煙幕が漂い、GPSを攪乱するための妨害電波が発信され、投下したスマート爆弾のほとんどが滑走路を外してしまったのだ。

この作戦失敗により、状況は五里霧中ごりむちゅうに陥った。そもそも、どうして基地が突然、その場所に出現したのか、誰も知らない。

ペリリユー島西方二〇〇キロを西へと疾走する米艦隊の中心にいる強襲揚陸艦³、ボノム・リシャルル⁴（四〇五〇〇トン）の作戦室で、第3海兵師団司令官のジェームズ・レイ中將は「宇宙開発みたいなものだな……」と嘆いた。

「人々は、NASAが宇宙の隅々まで監視していると思いがちだが、実際はドア・スコープで玄関の外を覗くようなものだ。アメリカのスパイ衛星は、北京にあるマンホール全てを数えられるわけでもない」

その場には、ペリリユーから共に行動をする日本と韓国の部隊指揮官がいた。

台湾軍は去った。パラオ政府が台北タイペイではなく北京を取ったことで、台湾はアメリカへの意思表示として作戦への同行を断ったのだ。またロケーション的にも、台湾が積極的に参加できる場所ではない。



南沙を巡る争いには、台湾も関与しているのだ。情報参謀のヘンリー・ブリット大佐が、モニター上に映し出された現地の画像を前に口を開いた。グローバルホークUAVから撮影されたその画像は、赤外線カメラと合成開口レーダーを用いて合成されたもので、煙幕を透かして地上の様子を撮影している。

地上に統合直接攻撃^A弾^M爆弾^Dが開けた数十の穴が見てとれるが、見事にどれも滑走路を外れていた。「インターネットで検索をかけたところ、中国資本によるカジノ・リゾートの建設が開始されるらしいという現地の新聞記事を見付けました。三年前のもので。当時のフイリピン側の開発パートナーは、ここを中国人にとつての桃源郷^{シヤンケリヲ}にすると言言していたようで、CIAが地元選出の議員に確認しましたが、名称はこのシヤングリラで通っていたようです。われわれも、ここをシヤング

リラ・ステーションと名付けました。ご覧の通り、残念ながら滑走路二本は健在です。地下の燃料タンク何基かの破壊には成功しましたが、ほとんど空だった模様です。中国はこの基地と、太平^{タヘイ}島の基地を使い、ペリリュー島までの大空輸作戦をやつてのけたと考えられます。現在、われわれの威力偵察隊^{フォースリコン}と自衛隊の混成部隊が、MV-22オスプレイに乗り込み、先行して島へ向かっています」

「単に、地上施設があるというだけなら、爆撃で事足りるわけだが。問題は何か？」

とレイ中將が偵察写真の束を捲^{めく}りながら問うた。「問題は主に二点です。まず一点は、基地機能が強化されつつあるということで、この映像にはありませんが、武装ヘリを搭載した揚陸艦が接近しています。飛行場周辺には、歩兵と、軍用車両の存在も確認済みです」

「われわれがパラオにかまけている間に、それだけの戦力を揚陸してみせたというわけだ」

「はい、そのようです。二点目の問題は、その揚陸能力。これまでの戦場と違い、ここは中国と目と鼻の先です。海南島かいなんとうから直線距離で一三〇〇キロありますが、島嶼とうしょ伝いに飛ばせば、ヘリコプターも容易に持ち込めます。すでに中国艦隊も展開し、フィリピン軍には為す術もありません。わが第七艦隊は、バシー海峡を抜け、パラオへと向かっていたところを、ようやく針路を変更させたという状況です」

「我が方の味方艦隊で最も近いのは？」

大佐が画面を切り替えた。

「シンガポールに配属された、フリーダム級ただ一隻です。たまたまブルネイ海軍と訓練中でした。中国の空母機動部隊は、われわれの右翼を西へ向かっています、南沙周辺には水上艦艇が複数と、

おそらく潜水艦もいるはずですよ」

「味方艦艇は、ほとんどがフィリピンの東側か……。しかもわれわれは、手負いの中国海軍に追われている」

ペリリユーを巡る攻防で、陸上部隊の支援に出動した中国海軍の艦艇にアメリカは手酷い打撃を与えていた。今後の米中関係を考えて手加減した攻撃だったが、それでも歩兵を満載した揚陸艦が沈没し、戦闘艦の多くが、レーダーを潰されて作戦継続不能に陥っていた。

対して、こちらは海兵隊の非武装運搬船がミサイルを一発喰らっただけだった。

海上での決着はほぼ付いている。

中国は、このチキン・ゲームにアメリカが先に屈し、手出ししてこないことに賭けたが、ペリリユーという海兵隊の聖地を侵略したことで虎の尾を踏み、アメリカは漸進的に攻撃のレベルを上げ

てきた。

そして今や追撃モードに移っている。

場所は南沙で、中国と対立するフィリピン。

アメリカの更なる攻撃を思いとどまらせるものは、ほとんどなかった。

中国は唯一の空母部隊をルソン島の東へと展開していたため、北に第七艦隊空母部隊、南に海兵隊を含む日米艦隊と、南北から挟まれていた。

しかし、中国側にも有利な部分はある。

それは戦場を移動するたびに、中国本土へと近づいていることだった。その気になれば、パラワン島は、海南島から戦闘機を飛ばせる距離なのだ。米中両国が、ペリリュー島を巡って正面衝突していることはすでに公のニュースになり、市場に衝撃をもたらしていた。

アメリカにとっても、この事態を拡大し、長引かせることは決して望むものではなかったが、同

時に中国にとっても、後が無い状況に陥りつつあった。

第二列島線の、さらに外側の確保を目指して築いた基地を失い、ペリリューでは多くの兵士を死なせる羽目になったのだ。

米中は、今や崖がけの上で取っ組み合っているのだ。

★ご覧いただいた立ち読み用書籍はPDF形式で、作成されています。この続きは書店にてお求めの上、お楽しみください。